

関連学会印象記

第3回国際ショック学会

榎本 温

第3回国際ショック学会は去る平成7年10月21日から23日まで、アクトシティー浜松において、帝京大学麻酔科教授岡田和夫会長のもと開催された。2回目の国際ショック学会はWienで1991年に開かれたので、4年ぶりのことである。

今回の主題は“Integrated Approach to Shock from Molecular level to Whole Body”であった。会場は、講演、シンポジウムなどのコンサートホール、その他、口演、シンポジウムを行う2会場と、ポスター会場が2ヶ所、そのひとつには、展示と飲み物コーナーがあった。基調講演2題、特別講演3題、シンポジウム11題、サテライトシンポジウム4題と、盛り沢山の内容であった。演題数は、口演111題、ポスター116題で登録者数約400名のところ、25カ国から約340名の参加者数であった。

基調講演は、Thiemermann先生が循環ショック時のNOの役割をわかりやすく解説した。もう一つは小沢先生がショック時の肝臓のミトコンドリアのredox stateをAKBRで表し、それが患者の予後を予測するのに役立つことを講演した。2日目の特別講演で特に興味深かったのは、あの世界的に有名なLefer先生の話であった。心臓の再灌流障害にpolymorphonuclear leukocytes, NO, selectinが関係しているという話をわかりやすく説明していた。その他の特別講演として、Chaudry先生は、論文の書き方を、Baue先生が、MOF, MODSやSIRSの事を発表していた。多くの興味深いシンポジウムがあったが、全てを拝聴するのは困難であった。現在ショック学会が何に主眼をおいているのかを興味のある人のために、ここにシンポジウムの題名を上げておく。Nitric Oxide in Shock (6題), Cardiac Function during Shock and Sepsis (5題), Detection Method of Lipopolysaccharides and its Clinical Application (7題), Small Volume Resuscitation for the Initial Treatment of Shock (6題), Failing Organs in Shock (5題), Molecular Biology and Shock (4題),

Pathophysiologic and Therapeutic Implication of Humoral Mediators in Shock and Sepsis (5題), Cytokines and Cytokine Antagonism in the Pathophysiology and Treatment of Shock (4題), Risk Stratification for Clinical Trial in Shock Research (3題), Novel New Agents in the Treatment of Shock (3題), Newly Developed Blood Substitutes (5題). サテライトシンポジウムは、Beneficial Role of Protease Inhibitors in Shock Therapy, SIRS and Septic Shock, Role of Phosphodiesterase Inhibitors in Treatment of Shock, Sepsis and Endotoxemia -New Therapeutic Approach- であった。

すべての演題は、国際ショック学会の機関誌であるSHOCK (Vol 4, Supplement 1, 1995)に掲載された。この雑誌は数年前に創刊され、現在ヨーロッパとブラジルのショック学会の機関誌で、将来日本ショック学会の機関誌にもなる予定だそうである。論文の採択率は60%で、インパクトファクターはまだついていないが、つけるべく努力するとのことであった。それと、私なりに気が付いたことであるが、一般演題で、抄録を送っておいで発表に来ない者がおり、特に旧共産圏の国と中国の方が多かったようである。国際的なルールの確立が望まれる。

本学会にはWelcome Receptionが20日の夜に、21日の朝には開会式コンサートが、22日の朝にはPresidential Run、夜にはBanquetが、23日の夜には京都へのツアー、24日には京都でのサテライトシンポジウムと内容が豊富であった。そのほか、浜松の市内観光、箱根—東京ツアー、ヤマハ楽器の見学ツアーなどのオプションがあった。私は、Welcome Receptionと開会式コンサートだけ参加させていただいた。Presidential Runは5kmを走るのであるが、朝6時半という早さに躊躇してしまった。走れば、特別なTシャツがもらえるので後悔している。何はともあれ、大変興味深く、役に立つ学会であった。